超整理！（４）鎌倉時代の政変　　ギ　タイ　ケイ　ライ　シュウ　テイ　コウ

〈執　権〉	〈戦い〉	〈政治〉	〈法令〉
（　時政　）	1200梶原景時× 頼朝、頼家側近 1203比企能員× 頼家の妻の実家 1205畠山重忠× 1204 源頼家幽閉、暗殺	経験不足の将軍源頼家専決停止 → 13 人の合議制。 しかし頼朝亡きあと、誰がリーダーになるかという、有力御家人どうしの内紛続く。	初代政所長官（別当）の70歳（　大江広元　）がその職を、自分が見込んだ 北条義時 に譲る。
義時の法名…得宗 （　義時　） 名指しで追討対象とされても上皇方と戦って幕府を守り、リーダーとして御家人たちの信頼を得る	1213和田義盛× 初代の侍所長官（別当） 〔　和田合戦　〕 1215 源実朝暗殺『金槐和歌集』 →後鳥羽上皇と幕府の関係悪化 1221 義時追討の院宣 →〔　承久の乱　〕 大将…子の泰時、副将…弟時房	泰時は勝利後すぐ鎌倉に帰り、 • 朝廷監視・西国統轄 （　六波羅探題　）設置 • 上皇方3000か所の所領没収 →東国御家人が西国に移住し （　新補地頭　）設置	時房が残って初代六波羅探題就任 初代時房 新補地頭の最低収入保障 （　新補率法　） あ 段別５升の加徴米 い 11町で１町の免田 う 山野河海は折半
（　泰時　） 経時		京都から呼び戻されて連署就任 「合議政治の確立」 ア 執権補佐（　連署　）設置 初代時房 イ（　評定衆　）設置 11人 鎌倉幕府の合議機関「評定」メンバー	御家人社会だけに適用 （　御成敗式目　） 頼朝以来の先例、武家社会の慣習法（どうり） （　摂家将軍　） 九条頼経→頼嗣
（　時頼　） 御家人、時頼支持	1247 三浦泰村× 〔　宝治合戦　〕 →得宗専制の傾向 権力の正当性…あの北条義時こと 得宗 の後継者	所領裁判の迅速化　予め原案作成 （　引付衆　）設置 （　建長寺　）建立　臨済宗 蘭渓道隆	（　皇族将軍　） 宗尊親王 ※北条氏は将軍になれないので、安達氏や足利氏など清和源氏の血を引く有力御家人の将軍就任可能性を、皇族の権威で防止。
（　時宗　）	異国警固番役　設置 1274〔　文永の役　〕 石築地　役を課す 非御家人　動員権獲得 1281〔　弘安の役　〕 元と高麗→ 東路軍と　江南軍	（　円覚寺　）建立　臨済宗 無学祖元 九州に御家人が増えてくることに。＝九州に幕府の支配が広がった。 南宋の降伏兵	〔　地頭請　〕 荘園領主に一定の年貢納入を確約する代わりに土地支配に介入させない。 〔　下地中分　〕 下地（＝土地）を荘園領主と地頭とで折半。
（　貞時　） 内管領 平頼綱	安達泰盛、信望集める 1285 安達泰盛←平頼綱 滅ぼす 〔　霜月騒動　〕 成人した貞時が平頼綱を滅ぼし、 得宗専制　確立	恩賞用意 竹崎季長　泰盛さまの死を悲嘆 九州に御家人は少なかった 幕府の支配が九州にも伸張 →1293〔　鎮西探題　〕設置	『蒙古襲来絵巻』の主題は泰盛の恩 1297 永仁の徳政令 非御家人と凡下には適用されず 凡下…庶民。〔　借上　〕のこと。
（　高時　） 内管領 長崎高資	1224正中の変→日野資朝流罪 1231元弘の乱→後醍醐天皇流罪 後醍醐退位で、持明院統から（　光厳　天皇）が鎌倉幕府によって立てられる。	建長寺の修理費のため 〔　建長寺船　〕派遣　元	1317 文保の和談 →〔　両統迭立　〕 後醍醐は大覚寺統のほう 現天皇は北朝で持明院統